一般に明治初期に制作された「日本画」用の額縁は木地のままか、よくて木地に直接にごく簡略な装飾が施される程度のものが通例であったらしい。ただし、特別な機会には蒔絵工が仕上げに携わることもあり、その際には、額自体が美麗な文様で飾られることが多かった。この三点を囲む額縁は、こうした蒔絵縁のありようを典型的に示しているもので、絵馬額などではちょうど飾り金具が配される位置に、牡丹唐草文が施されている。

［大熊］

53── 荒木寛畝
《藤に牡丹図》 一点
明治17年（1884） 絹本着色
本紙：48.5×72.5
額縁：57.5×82.0

54──野口幽谷《水仙図》
一点
明治17年（1884） 絹本着色
本紙：48.5×72.5
額縁：57.5×82.0

55── 渡辺小華
《鶏に蟷螂図》 一点
明治17年（1884） 絹本着色
本紙：48.5×72.5
額縁：57.5×82.0

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の宮中デザイン
―和中洋の融和の美を求めて
三の丸尚蔵館企画展図録　No.32

編集：宮内庁三の丸尚蔵館
制作：艸藝社
翻訳：横溝廣子
発行：財団法人　菊葉文化協会
平成15年9月27日

The Imperial Court Design – searching for harmony between the Japanese, Chinese and Western styles
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.32

Edited by the Museum of the Imperial Collections, Tokyo
(Sannomaru Shōzōkan)
Printed by SOGEISHA, Ltd., Japan
Translated by Hiroko YOKOMIZO
Published by Kikuyō Cultural Association
Issued on September 27, 2003

Copyright ©2003, Museum of the Imperial Collections, Japan